

【主題名】よりよい友達関係 内容項目 「B-(9) 友情, 信頼」

【教材名】大きな絵はがき (東京書籍 新しいどうとく4)

<あらすじ> 広子宛てに、転校した正子から料金不足の絵はがきが届く。返事を書くときに、兄は「料金不足を正子に教えた方がよい」母は「お礼だけ伝えた方がよい」と言い、広子はどのようにしたらよいのかと迷い、今まで正子と一緒に過ごした日々のことを思い返し、料金不足を知らせることにした。

【ねらい】

- 内容項目の理解
友達と互いに理解し、信頼するという道徳的価値について指導する。
- 児童生徒の実態把握
少人数の学級のため、気心は知れている。しかし、友達関係が固定して変化はないため、その後の人間関係を気にして友達に注意できない様子が見られる。

本時のねらいを設定する

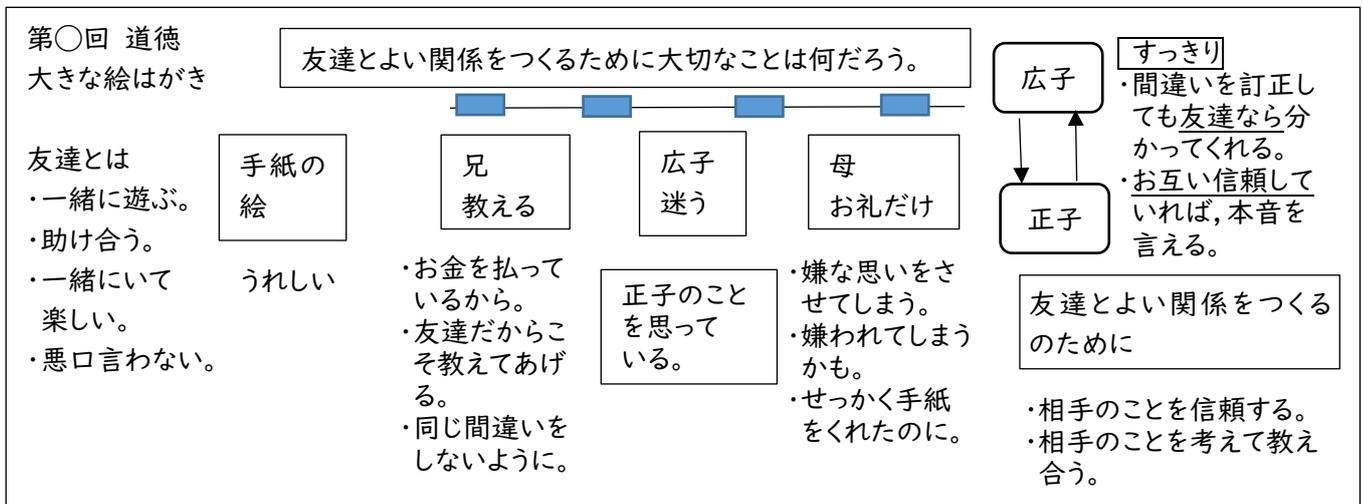
判断力 心情 実践意欲 態度

互いに信頼し、ときには注意し合いながら、よりよい友達関係を築こうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

【指導の流れ】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。 ○ 友達とは、どのような人ですか。	導入の工夫
	2 課題をつかむ。 友達とよい関係をつくるために大切なことは何だろう。	問題解決的な学習
展開	3 教材の内容を把握し、登場人物の心情を捉える。 ○ なぜ、広子さんは迷っているのでしょうか。 ○ お兄さんは、どうして教えた方がいいと言ったのでしょうか。 ○ お母さんは、どうしてお礼だけでいいと言ったのでしょうか。 ○ どちらにも共通している思いや考えは何だろう。	自分との関わり 多面的・多角的
	4 友達とよい関係をつくるために大切な思いや考えについて話し合う。 ◎ あなたが広子の立場だったらどうしますか。理由も考えましょう。	
終末	5 自己の生き方について考える。 ○ 友達とよい関係をつくるために大切な思いや考えは何ですか。	

【板書計画】



【評価】

友達とよい関係をつくるために大切な思いや考えについて、自分との関わりを通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。